



---

# STARTED

---

神波 由那

Yuna Kannami

---

## STARTED 目次

---

性

手を挙げろ

Masaki

HAKATA BAY SIDE

Winter memories

Accident

New Thinking

世界が果てる場所

Just so far away

Dream Rord

Long Distance

adios

夏予報

何度でも

Crazy Blue

かくもはかなき

エディの酒場

BE WITH FREE

*Itself*

ティーンエイジブルース

朝焼け

*Hold the pain*

*What is loved*

ただの世界

*full of hydrengea*

雨上がりの夜の夢

*Alive of Life*

*Deep pearl*

明日へ歩けば

*Deatiny of two*

*Ruined town*

蹴り飛ばせ

あとがき

## 性

---

革命が起こる年に 誰もが産まれたもんだろう  
最後の楽園の中で 見たものって一体なんだろ  
一緒に眺めるか？

発展途上な病を歌う患者  
救う術すらよく分からない使者  
僕等はそんな下らない集団であれど  
世界の始まりも、終わり方も  
夜明けを待ったまま  
性を剥き出す

振り返れば栄光の青春 ただ心配なのは自分  
深く考えちゃいない世間  
その渡り道に悲嘆

何が何がじゃない

勉強不足の話題を騒ぐ奴等  
叩く為だけにしかない愚か  
僕等はそんな未完成、そうだとしても  
何の為に五体があるんだい？  
考えられる頭脳  
閃いた第六感  
全ての体感を持ったまま  
性を剥き出せ

何でも何でもより良くしないかい？

全治不明の傷を負った患者  
治せる力も情けもない医療機関  
僕等がそんな無能だと言われる奴等でも  
1つぐらいは何かやれるだろう  
手を差し伸べて  
性を剥き出せや

そうとしか唱えれば  
やれと言われれば  
その通りに導かれれば  
性も蠢くか

手を挙げろ！

---

Ah 誘われていた招待  
待っていたのは厄介  
頭が痛くなる問題

No がんじからめな真実  
嘘で絡んでくるなら  
お断りでいいだろう

いつでも秘めてるピストル  
狙うのは標的は幸せのスパイラル

手を挙げたい欲しがった未来  
手に入れたい大きな存在  
掴みたいきっかけの展開  
酔いしれたい甘美なる味わい  
全ては人生だい

Ah 封を開ければ落第  
拾えない及第  
残酷だらけな問題

Oh 至るところで起こる  
いざこざにムキになって  
イライラはもう面倒

いつでも準備万端で  
構える捕らえる見据えろ将来

手を挙げたいそれだけでっかい  
手に入れたい野望を叶えたい  
掴みたいひよっとしたら何だい  
酔いしれたい今起きた瞬間かい  
皆が生きていたい

いつでも誰もが不快感を

抱いて憎んでいたくはないよ

手を挙げたい今はこれでもいい  
手に入れたいつかは叶えたい  
掴みたい焦らなくてもいい  
酔いしれたいまだ夢だけどいい  
人生はそれでいい

## Masaki

---

マサキは同じクラスの子  
やけに大人しく病弱じゃないけど  
透けるような色白で 他の子よりなぜか特別にみえた

マサキは大地主の子  
大人になっても困りはしないだろう  
秋に訪ねた修学旅行  
でっかい寺より家が立派だなんて

一回り以上 時は経ったけど  
君が見てた 夢は何だったっけ？  
偉そうな事は言えないけど  
あの街から自分は飛び立っていったよ

ねえ マサキ 今何を見てる？  
どんな顔してる？ 誰か愛してる？  
ねえ マサキ 届かない知らせや  
夢の中で見てみたいよ 大人びた君を

マサキは照れ屋だった  
人前で話すのは苦手だった  
真っ赤に頬を染めて  
クラスの女子からは からかわれていたっけ

ねえ マサキ  
家庭は持ったかな？ 子供はいるのかな？  
幸せでいるのかな？  
ねえ マサキ 卒業したきり  
自転車ですれ違っていた  
君を見かけたきりだよ

滅多に学校へ行かなかった自分が  
運動会にグラウンドの隅っこで見た  
陸上部の君がリレーの時に  
走った姿は今も輝いてるよ



ねえ マサキ 今あの街で  
どんな顔をして どう過ごしてる  
ねえ マサキ もう届かない知らせでも  
夢の中でも逢いたいよ  
あの頃の君に  
大人びた君に  
初めて好きだった君に

あの頃だったからこそ  
抱けた夢だからこそ  
時には思い出す懐かしい  
アンティークな香りのようだね

## HAKATA BAY SIDE

---

ポートタワーを間近で見上げればもうすぐさ  
都市高速 オレンジ色の ライトが水面に揺れている  
潮の香りに雨上がりに濡れて歩くヴォードウォーク  
ライトアップに 映し出された 繋ぎたい手が 欲しいよ

### HAKATA BAY SIDE BAY SIDE

海と暮らすこの場所であたしは思う  
この街じゃ君だけが 嗚呼 特別に光って見えている

午後8時過ぎ 海峡越えてきたフェリーが着く  
人波に押されて迷わないように 離れた場所へ 行こうよ

### HAKATA BAY SIDE BAY SIDE

波に映る 影潜め あたしは思う  
この街で永久に 嗚呼 離れたらいけない恋がある

鳥達が沖の先でターンして踊り出す  
閉まった店の合間すり抜け 暖かな身体を 抱いてよ

### HAKATA BAY SIDE BAY SIDE

さざめきながらこの場所で あたしは思う  
この街で君と 嗚呼 急がば回れな恋がある

君の夢とか想いのたけをそっと囁いてよ  
コンテナの隙間で 微熱のような吐息

### HAKATA BAY SIDE BAY SIDE

海と暮らすこの場所であたしは思う  
この街じゃきみが 嗚呼 一番に光って見えている

### HAKATA BAY SIDE BAY SIDE

無数の星 見上げれば あたしは思う  
この街で永久に 終わらせてはならない恋もある

## Winter memories

---

嗚呼、此処に居て  
一緒に歩いて そっと歩いて  
朝焼けが 空を仰ぐまで

街の灯りはゆっくりと 闇と重なり君の影消していく  
思い出 いつだかの思い出  
焼け果てた記憶は 風に飛ばされていく

過ぎ去りし日々を 何処まで追いつけても  
過ぎたものなど 振り向かないだけなのに

真冬に季節外れ 雷鳴が響く  
真冬に木漏れ日 遠くに潜む  
一面 大地が白く覆われ  
何もかもを 奪おうとするの？

窓の灯りはひとつずつ 剥がれるように落ちていく  
長い時の狭間に 君がくれたものを  
失くしてしまうみたいだ

きっと何処かで 二人は他人を選んでは  
たぶん何処かで 比べているのだろうか

真冬に遠く 去っていくもの  
真冬に溶ける 結晶のように  
いつしか どれ程消えるのだろう  
君と繋いだ  
君と絡めた  
手が離れてから

冷たい海 吹きすぎし風 いつかの時を  
冷たい息 空気に散らばる時を  
どれだけ見つめていられるだろう  
どれだけ忘れていくのだろう

## Accident

---

Tell me OK? あの曲がり角でいいですか

Tell me Ok? 次に渡る信号はここですか

涼しい顔をして 掻き分けて  
辿り着くその先には  
どんな顔をして すました目で  
僕を待っていますか？

多分ここから旅立つ  
道に転がった空き缶に  
足を引っ掛けて転んでも  
当たり前になるのかな？

Show me 何か どこかで起きたTVん中の事件を  
Show me 誰も 皆が承知して解って喋ってるの

寂しげな顔で 見つめないで  
涙を流せばいい時なんて  
いつの日か来る やがてやって来る  
憂うのは今辞めよう

多分ここから歩き出す  
始める気持ちが一番大事  
それなりにブレないでいれば  
そんなの些細なアクシデント

それはここから旅立つ  
道の外れの看板に  
気づかずうっかり転んでも  
気にしないでいられるさ

きっと今から旅立つ  
道には山あり谷ありだろう  
何かすれ違って行く度に  
それは些細なアクシデント

何でもTake it eazy

だって些細なアクシデント

## New Thinking

---

ただの散歩さ 通り過ぎるバスと行き先が一緒でも  
何を取ろうが 間に合えば何だっていいんじゃないの  
そんな納得のいかない顔をされても どうすりゃ気にいるの  
理由も無けりゃ拗ねる態度でこっちを振り向くなよ

ただの迷惑 あれこれ押し付ける感情を言葉にすれば  
もしかすれと ナイフとなって不満の傷をつけるだけ

気持ちと反対の顔を見せれば（余計なお世話を焼きませんか？）  
放置して関わらないでいられれば（いつまでも絡みつきませんか？）  
選ぶものが自分の自由じゃダメだなんてさ（付き合えない理屈って何ですか）  
何処まで大切なものすら取り上げるんだろう？

Talking for free

止められない これは新たなる思考

Something to see

誰も止められない新たなる自我

じゃあいいさ 誰かが賛成すれば何か反対するそれは世の中  
争って憎しみあって何人巻き込まれて犠牲にしてるのか

少し位の意見を挟んだとして（何故それを被害妄想に変える？）  
素直に聞き入れない頑固な頭だとして（受け入れる心を持ってないでいる？）  
じゃあいつまでも付き合っていないのだから（反乱の狼煙を上げている）  
邪魔なんてしないで、少し位冷静になればいいだろ？

Talking for free

止まることのない新しい思考

Something to see

信念は揺るがない新たなる自我

ああ、それでも人は他人の欠点を粗捜してる  
平凡に生きれても裏では偏屈なデマが流れる  
何も事実を伝えない世間もどうかしてるんだ  
ちょっと位、周りとか現実考えて見れば解るのに

表向きに取り繕っていれば（あれこれツッコミはしませんか）  
穏やかに怒りを露にしなければ（人は皆仲良く出来るものですか）  
そんなの馬鹿げた感情論でしかないのだから（誰もを信じて生きられますか）  
うるさいノイズなんて聞きたくもないだけなんだ

Talking for free

見つけたしたのは苦悩な思考

Something to see

見つけられるだろう新たなる自我

Talking for free

止められない これは新たなる思考

Something to see

誰も止められない新たなる自我

## 世界が果てる場所

---

若い魂が命を宿る 若いからこそ何も解らず  
気がつけば見出せない後の祭り

南の方へただ夜を突き抜けて走る  
どんなに倒れても、糧にしたものが変わる訳じゃない

そう、息を吹き込んで  
深い魂の入り口まで抱きしめて  
例えその時が来ても  
語り継がれる日々は続く

ある夜にひとつの答え 日が昇れば照らす太陽  
その光に僕等は何を見るだろう

何でも手が出せるような感覚の世界  
流される事なく 保てれば何にかも変わらない

ああ 地滑りが起こるように  
墮ちていだけなら這い上がれ  
たとえ世界が果てる場所で  
確かに何かが残るだろう

俯いた男が嘆いた 絶対絶命な中で  
幻覚ではなく誰かが囁く  
命ある限りそれはひとつだけ

そう 息を吹き込めば  
蘇る術は何処かで始まる  
例えいつかどれ程の事も  
誰かが忘れずに生きていく

ああ 地滑りが起きたとしても  
墮ちる事なく転がり続けてもいいだろう  
たとえ世界が果てる場所で  
誰もがその証を知るだろう



## Just so far away

---

描いてみた  
ロケットで飛び出そうとか  
海を貨物列車で渡ろうとか  
出来なかった  
無茶な目標で 互いを傷つけたかもしれない

季節は変わり 別々の道 別々の生き方 それぞれの愛し方  
何かのせいにしたければ  
通り雨のせいにすればいい

それでいいし それでもういい  
無邪気な若さで過ぎ去っては  
痛みも感じあえた  
さあ、次の場所へ

都会の流行り場で  
一晩中パーティーの誘い  
僕が狂っていて  
昼まで寝てるんだと思い込んでる  
生きる道を見つけたら僕は  
長距離バスで遠くに行くと伝えてくれ

そんな時代もあったねと笑っておけばいい  
若すぎたからこそやれたかもしれない  
味わった初めての痛みを知ったなら  
ここからまた始めればいいだけだから

もう 悩まないで そう 手放せばいい  
もう 苦しまないで Just so far away  
Here we go

もう 傷つかずに 手放せばいい  
もう 悩まないで そう 手放せばいい  
もう 苦しまないで Just so far away  
もう 悲しまずに もう 傷つかずに

もう これ以上 もう 泣かないで  
もう 悲しまずに もう 傷つかずに  
過ぎ去ったから  
さあ Just so far away

## Dream Road

---

例え何千分の1かでも  
誰でも描きたいオレンジ色の光  
yeah 偶然に転がったチャンスは逃すな  
君だけにもたらした希望

もっと高く高く君と飛びたい  
もっと早く早く君と走りたい

突き抜け、突き進め 道を外れかけても  
立ち止まっても 独りぼっちじゃない  
その度に手を差し伸べる  
僕じゃなくても 導かれるままに

もっと遠くへ遠くへ君と行きたい  
もっと沢山沢山君と感じたい

信号もない 一本道の 果てまで僕等は駆ける  
拳を伸ばして その先にあるだろう  
届くはず僕等のDream

もっと高く高く君と飛びたい  
もっと遠く遠く君と行きたい  
そう もっともっと 君となら分かち合いたい

信号もない 一本道の 先まで僕等は駆ける  
がむしゃらでいい ひたすらでもいい  
超えれば広がる何かへと  
そうきっと 僕等を待っている  
輝く栄光へのDream Road

## Long distance

---

何も変わらない日常の中で  
何故疲れて 明日が不安で  
いつか忘れた大切な君に  
今大切な人はいますか

優しさだけを抱えても  
上手くやれない事が染みた  
例え何か失っても  
得る為に何かがあるだろう  
君が遠くても

全ては去り行くものだから  
そんな事の繰り返しなだけ  
ずっと遠くなる

影の隙間に隠れながら  
あと少しが踏み出せない  
最後に残した君の言葉は  
その背中より愛しく思う

気を落とす時間はいつか  
悲しみを薄めてくれるのだろう

本当の事だけ知りたくて  
でも本音なんて分からない  
君がいたとして

時たま夢をまだ見てしまう  
いつまでも消えない思い出がある  
はるか遠くても

いつも何か失って  
そして始まりもあるだろう  
そんな無常

全ては去り行くものなんだ

そんな事を繰り返すだけ

君が遠くなる

ずっと遠くなる

はるか遠くなる

## adios

---

さよならは簡単な言葉  
あっけなく言えるもの  
切り出された君はいつものように  
トーストをかじってる

一回りした太陽がいま  
退屈したようにあくびをしてる

長距離バスに揺られて 片寄せあって眠った  
幸せな思い出なんか  
眩しくもない

重いのは 嫌  
自由でないじゃない  
小さな花にすら 名前をつけるみたいに

Adios Adios Adios  
失なった少年  
落ち込んでいるのはたぶん今だけ  
合鍵をそっと置いてこの部屋を出る  
見送る君にそっと手をふる  
涙と笑顔で

さよならは簡単な残酷  
あっけない結末  
この世に一体どれくらい  
こんな事生まれてるの？

いつでも祝ってた 記念日でさえ  
これからは違う 要らないよ  
ねえ そうでしょ？

Adios Adios Adios  
失くしたトキメキ  
忘れられないのはたぶん今だけ

Adios Adios Adios

こんな時焦る

携帯突然こんな時かかる

最後の姿見るのは出来そうにないから

遠ざかる街にそっと手を振る

涙まじり

笑顔は無理

## 夏予報

---

オンボロの車転がして お迎えにあがります  
6年前の初デートは 2時間送れ 待たすねboy  
何処へ行くのと そんな野暮じゃん 真夏を二人占めよ  
ハンドルを任せると言えば 慌ててるboy マジメ顔

Let's go through 絶好のお天気に  
Dive to blue 途中下車は無しよ  
Find the true 胸をはためかせているのなら  
今年の夏予報は「幸せでしょう」

いつだって気紛れだけど 許して差し上げます  
6年経った今になっても 追いかけている つれないboy  
赤信号になると何気に あたしの頬を撫でて ya  
青に変われば恥かしげに 慌ててるboy マジメ顔

Let's go through せっかくの休日に  
Dive to blue 膨れっ面はなしよ  
Find the true 笑い声が溢れ出してきたら  
今年の夏予報は「明るいでしょう」

南風に乗る 夏草の想い 真昼の白い月  
見守られてきみといられる それがただ 嬉しいよ

Let's go through 真夏の太陽に  
Dive to blue 雲隠れはなしよ  
Find the true 燃えるきらめきを感じたなら  
今年も夏予報は「輝くでしょう」

きみに贈る 真夏のプレゼント  
まだ青春はもっか上々 そんな気持ちさ

Let's go through 日が暮れていっても  
Dive to blue 夜空の星花火  
Find the true 確かめるきらめきが嬉しいから  
今年も夏予報は当たりね



何とも しあわせ

## 何度でも

---

カーブを抜けたら 右手に広がる海を  
差し込む日差しを 肩越しに浴びて  
何処までも向かう そうあなたのためなら  
季節外れの 花火だって上がる

胸を焦がす ありふれた形じゃなくても  
たったひとつ あなたの眼差しを受けよう

そう once more again once more again  
あたし達は旅に出る いつか見つめてた愛の続きへ  
温もりを そのキスを 何度でも繰り返している  
今度は二人きつと大丈夫

あなたに届かず 流した涙の粒は  
小さな川に落ちて そして海に流れて  
キラキラと光る 冬の波間の輝きに  
白い息を吐いて また愛を覚えた

胸を焼いた 幾年の時の彼方に  
たったひとつ あなたの真の愛情を見たんだ  
そう once more again once more again  
明日へのカバンぶら下げて いつか想っていた夢の続きへ  
繋いでる この右手 何度でも離さずにおいて  
今度は二人幸せになれる

多分失敗なんて誰にでもあって 遠い昔そうだったとしたって  
今あなたとやり直せる現実を 心に塗りかえていけばいいって  
誓ったんだ もう傷つけない きつと叶うんだ

そう once more again once more again  
あたし達は旅に出る いつか見つめてた愛の続きへ  
温もりを そのキスを 何度でも繰り返している  
前途はかなり洋々  
繋いでる この右手 何度でも夢を見させて  
今度は二人幸せになれる

## Crazy Blue

---

ハンドル握って アクセルふかして  
無駄なほどに回転させるエンジン  
夢にまで見た あの海へ行こう  
気持ちだけはとっくに オーバードライブ

止まらない野望 ヒューズも飛んだ本能

Crazy Blue 昇りつめようdo it  
周りにさらしてやろう  
底抜けにハマりこんじゃbaby 何処までも届きそう  
ゴール以前に現在（いま）を奪いましょう

はみだすアンダーウェア ちぎれそうな仕草  
その身をよじらすような 匂い  
押し倒しちゃいそうで すぐには出来ないで  
もっとからかうほどに 舞い上がれ

軽やかに気分はjump くずれっぱなしのsmile

Crazy Blue 熱を帯びてdo it  
naked さらしちゃおう  
砂浜に足をもつれさせて 波しぶきをあげよう  
カッコ気にせず踊らせちゃいましょう

理屈は捨てて単純になろう もっとバカだっている  
要は好きか嫌いかなだろう シンプルはそうベスト

Crazy Blue 飛び込めよdo it  
周りにさらしてやろう  
底抜けにハマりこんじゃbaby 何処までも届きそう

Crazy Blue 熱を帯びてdo it

naked さらしちゃおう

Crazy Blue 熱を飲み込めよbaby 頭から波を被れ  
滴り落ちる汗は勲章  
ゴール寸前明日を奪いましょう...yeah



## かくもはかなき

---

裏切りなんて言うなよ  
買いかぶり過ぎなんだよ  
慕ってくれるのは 実に有り難いが

可愛い女が待ってる 痺れをきらしながら  
何かねだって来ても俺には  
服も指輪もカラダも買えやしねえ  
こんな暮らしじゃ 恋も滅びちまう

もうこれ以上俺を 信用しないでくれ  
嗚呼、仕事はかくもはかなき

職場に行ってみりゃ かつての部下どもが  
ろくでなしを見る目で 俺の周りに  
ドーナツを作って言うのさ  
「とってもアナタを信頼してたのに」

どうして君達 そんなに真剣なんだい？  
俺にはもう 無理難題 ただの人の子  
聖者でも崇めるように見てたなら 悪いが突き返すよ

いつもいつも人はかくもめでたき  
嗚呼、金と出世もかくもはかなき

物質が全て、ゆとりもない社会  
自分に酔いながら 時には騙される  
自分の関わる戦場でも ささやかな拠り所求めてる

いつもいつも心はかくもめでたき  
嗚呼、人の心はかくもはかなき  
いつもいつも自分はかくもめでたき  
嗚呼、信用はかくもはかなき  
そんならもう 俺を信じるなよ  
嗚呼、この世はかくもはかなき

## エディの酒場

---

今宵も繰り出す エディの酒場  
カウンター座りゃ ビールをキャッチ  
ほろ酔い気分で 仲間とよた話  
ブラウン管じゃ ナイトゲーム

主人のエディは ヒゲ面親父  
飲んだくれちゃ 愛想もいい  
良いニュースも 悪いニュースも  
エディにかかりゃ "Nothin' at all"

通い慣れた エディの酒場  
ごった返しちゃ 大騒ぎさ  
ドロップアウトも スーツ族も  
エディの酒場じゃ みな平等

赤ら顔が 客を和ます 気前も良しの エディの親父

今宵もふらりと エディの酒場  
ラストオーダーにゃ まだ早い  
ほろ酔い気分で 店もよたって  
親父にかかりゃ "Nothin' at all"  
今日も明日も 何てこっちゃない  
気のいい主人 エディの酒場

## BE WITH FREE

---

太陽がてっぺんに昇ったころ  
二度と押すことのないドアを開ける  
空気も蒸していたアスファルト・ジャングル  
ざわめきがやけに 耳の奥で回る

投げ出せないよ 今更心に決めたこと  
まだやり直せるはずさ

自由を手にして 決して弄ぶことなく  
未来を見つめて 決して目をそらさず  
歩いていく

各駅列車が鉄橋を渡る  
青空に見慣れた景色 光照り返す窓  
他人にしけた顔見せたくない  
つまらない自分映したくない

遠い昔にあのままやり残した夢  
まだ諦めていない だから

自由を手にして 楽なことばかりじゃない  
明日があるなら 最高の明日迎えたい  
今を生きる

息を静めて耳をふさげば  
確かな鼓動 熱い血が流れてる  
どんなことしていても この身体は  
同じように時を刻んでいくけれど

## BE WITH FREE

歩いていく  
時間と共に、真実と共に  
強い信念と共に

自由を手にして 今 初めて一から

未来を見つめて 決して無駄にはしない  
今を生きる

BE WITH FREE...



## Itself

---

誰か言うのを教えてくれ  
人間なんて分かりっこないとか  
裏切りの為に罰を受けたのだと  
浅はかに放つ言葉を

亡き母よ 信じてほしい  
時には弓矢みたいに折れた僕を  
何もしてやれないでいた罪を  
許して わがままな僕を

誰もが誰か必要で 誰でも愛したい人がいる  
独りじゃ何も聴けない  
皆不平ばかり言うのは  
満たされないで生きてる時代で  
持ちこたえられないから？

叩きつける雨の中で 一体どれだけ  
何を憎しみと 変えなきゃならない？  
僕に 壊れない船をくれ

どれを傷つけて 誰を傷つけて  
本音なんてどこにしまえば楽になる  
許されればそれでいいのかい  
プライドも捨てて恥をかくだけ

皆が皆を必要とし 誰も誰でもを愛せない  
孤独じゃ追いつけない  
どこかで血を流すような時代で  
これ以上強くなれるかは難しいんだ

心に雨はひたすら叩きつける  
でも何かを犠牲にしたいくはない  
憎しみなら捨てて 信念を持てばいい  
闇を打ち裂くような 波を切り裂くような  
僕に 壊れない船をくれ

嘘だらけの 街を歩いた  
見える全ては いらなくなった  
その場所から逃げ出そうとしていた  
泣いているのは見られないように

人々よ  
自分自身に直面するのは辛くて  
思い出したくないこともあって  
だけどまだ遅くはないと  
諦めないで 諦めないで進んでいるんだ

止む事のない永遠の雨に僕は  
どんなものも犠牲にしたいくはない  
恨みは捨てて自分の道があればいい  
Can have itself

## ティーンエイジブルース

---

表通りのショーウィンドウ 街ん中立ち止まってる  
僕に言うんだ 太陽の音が 「トムばりに 決めてやれ」 って  
何処かのモデル気取りで 歩いている女の子  
キレイ カワイイ だけど僕はもっと  
あの娘（コ）が好きさ

年頃になれば はぐれるか群れるかで  
帰り道のバスの中で 遠い海に夢（ミライ）を見てた

親父が美味そうにビールを飲む  
大人って素じゃ 生きられないの？  
甘い 酸っぱい 今の僕は そんな感触が欲しい

空にぶらさがる積乱雲 僕には誰が要るだろう  
雨が降ったら どこかで迷っている  
あの娘に傘をさすよ

冷たいアイスバーを おでこに当てたら  
あの娘が頬を挟んで キスしてくれたみたいだ

家に帰れば とりあえず団欒  
最近じゃ口数も乏しい  
テレビの野球見てるフリして 心は轟く僕さ

親父が美味そうにビールを飲む  
僕は身も気の抜けた缶コーラ  
ぶらぶら 学校に 顔を出すのも  
あの娘を見ていたいから

草花に寝転び 夢見ていたいな  
青春の感触 ティーンエイジブルース

## 朝焼け

---

かたちの無い  
けれどここに確かにある  
トキの許す限り ねえ  
情熱を愛撫しあおう 呆れるほど  
聞かないで  
隠された現実なんて  
悲しいから 今は味わっていたいよ  
ふたりだけの  
激しい真実

涙の染みついたシャツを  
夢の丘のてっぺんで 乾かして  
いとしい、いとしい、いとしいキモチに誘われて  
流れてゆこう 「ユラユラの海へ」

明日の予定は白いキャンパス  
離れられない夜が破れても  
キミのカラダはホラ  
幻じゃない夢の朝焼け

指輪外して  
人込みをすり抜けて  
夕日が射し込む部屋で ねえ  
シーツの中で溶けていたい 無邪気なまま  
答えないで  
悲しい現実のコトバなんて  
今は砂に埋めてしまおうよ  
誰かを 傷つけたとしても  
これが真実

ぶ厚い雲の下で傘をさして  
夢果てる場所に怯えていても  
そんなの、そんなの、そんなの知らなくてもいい  
飛びこんで行ける 「二人だけの海へ」

明日の予定はしばし忘れて  
眠りにつけない夜が過ぎるよ  
キミを想い目を閉じて  
願う二人の朝焼け

さびしさを喉の奥で苦み砕いて  
凍えた指を握りしめる  
境界線越しに接吻交わして  
路地を曲がるキミ

未来の予定は白いキャンパス  
誰にもわからない迷路の先  
明日にはまた声聞けるかな  
今度はいつキミと抱き合えるかな

怖がる位なら誰も人を愛せられない

キミを想い目を閉じて 願う二人の朝焼け

## Hold the pain

---

名も知らぬ風が何となく吹き抜ける  
きっとそれは僕を助けてくれるのかも知れない  
何も変わっちゃいない事は何なのと聞いたところで  
同じように感じないだろうし全てを笑う事なんて出来ない

もし僕が火を興して燃え尽きる前に  
何も君が心配することはないんだ  
雲がばらけるように僕は外側のレーンを走る  
どこかで何か君が気づくときはただ  
please hold the pain

言葉が金のなる木だとしたって  
そんなゲームなどつまらない  
誰が何を言おうと 気に病もうともしないだろう  
まだ僕は犯した罪を拭いされないようだ  
それは君も感じるだろう  
必要とされるものを探して  
もう一度戻ってくるよ

もし僕が燃え滾る炎へと飛び込んでも  
どうか君は心配しないで欲しい  
何かがばらけるように僕は曲がりくねる道に行く  
それにもし君が気づくときはただ  
please hold the pain

今僕が旅立ち何処かに立ち尽くしても  
どうか君だけは信じていたいんだ  
いつかはじけるような感覚を掴めたら  
どこかで何か君が気づくときはただ  
please hold the pain

もし僕が火を興して燃え尽きる前に  
何も君が心配することはないんだ  
雲がばらけるように僕は外側のレーンを走る  
どこかで何か君が気づくときはただ

please hold the pain

## What is loved

---

薄暗く冷たい 空気に繰り返し響いていく  
馬鹿げた子供の頃の夢や希望ってやつ  
そんなもの抱いて 都会の裏道で叶ったもんは  
踏みにじられた昨日のゴシップ記事のように  
バラバラに契れてった

僕は虹を見ていたのかな  
二度と答えは誰も返してくれない  
でも夕立の雨が上がる頃に  
自分でそれは解るだろう

この星を回る衛星みたいに  
孤独な中で見つければいい  
再び僕が街に出る朝に  
眺めも変わるだろう

止められなかった災い  
救う事も出来ない貧弱な力  
危なっかしくて墮ちそうな橋を渡って

幾つかの命は散り  
幾つかの日々は無意味に過ぎた  
どんな聖者が現れたところで、幾らの苦痛は消える？

何が起こるかだなんて  
どんな悲しみが産まれるかなんて  
ただこの夜明けを待つだけのように  
訪れるかは解らないだろう

宇宙を流れる衛星みたいに  
彷徨う中に見つければいい  
再び僕は階段を降りたら  
慈しくなるだろう

僕は虹を見てただけかな



二度と誰も戻せない景色なのに  
でもこの土砂降りが上がる頃に  
その答えは見つかるだろう

この星を回る衛星みたいに  
孤独な中で見つければいい  
再び僕は街に出る朝に  
靴紐も結びなおして

宇宙を流れる衛星みたいに  
彷徨う中に見つければいい  
再び僕が扉を開けたら  
慈しいものとなって  
優しく眺めるだろう  
大切なものを

## ただの世界

---

いつかのWeekday 雨降るAvenue

傘もささず ただ歩く

何故だろう 通りすぎる人 映し出すNEWS

逃れたくても 逃れられないのに

何が起きてるのだろうか？

狂った記憶

そこに感じているのは心

過去にもう泣かないで

こんな世界だから

今から造ればいい

自分だけの道がある

そんな世界だから

生きる為ならば生きよう

例え 情熱ほどの炎が無くとも

行く先に感じるのは 微熱

きっと すれ違う毎に人は

何かを暖めあう筈でしょう

何が起きたのだろうか？

誰かの記憶

胸に手を宛てれば 鼓動

昨日以上に泣かないで

ただ世の中だから

少しだけ歩けばいい

自分しか持てないもの

そんな世の中だから

育てられるなら生きよう

曇り空は やがて遠く...

破られた片隅のチラシ

昨日は消え、明日は見えない  
けれど 全て孤独と言えるのならば  
人は誰を愛すと言うの？

過去にはもう泣かないで  
大地が一回りしても  
出来事は戻らない  
誰もが手に入れられる  
可能性はゼロじゃない  
誰しも同じ  
皆違う けれど心は同じ  
皆同じ されど違う道  
たったそれだけが回る世の中

## full of hydrengea

---

雨に濡れた砂利道を 覚えてますか  
何歩も先を歩く貴方が いつも悲しすぎて

石畳で手を繋いだ 一瞬掴まえたかった

紫陽花の坂を歩きたい 花びらのように  
儚く散った愛情を 消し去りながら

ベランダに干したシャツが 眩しかったよ  
さよならを知っていても 風が微笑んでいた

まだ週末の夜は 上手く笑えないけれど

紫陽花の坂を歩きたい 色とりどりの  
思い出をもっと素敵な愛で 上書き出来るなら  
紫陽花の道を歩きたい 同じ速さで  
今度はもっと愛する人と 感じ合えるなら  
貴方は去り行き 今夜は 眠れる

in the full of hydrengea

遠く空の下の貴方は もう見えないでいる

紫陽花の坂を歩きたい 埋め尽くされた  
貴方とは違う幸せのなかで 生き続けるから  
紫陽花の道を歩きたい 愛する人と  
二人並んで同じ歩幅で 今始めるから  
貴方は散り行く そっと 消えてく...

in the full of hydrengea

## 雨上がりの夜の夢

---

雨上がりの夜の夢 君が出てきた  
変わらない華奢な身体 色白の顔  
夢のなかで君は私を強く抱いてた  
叶わなかった 願いのように

好きなんだとちらほら ほのめかしてた  
それでもとそつなく かわされていた  
新しいケイタイの 番号もわからず  
君は どうしてるかな

時間を共にした日々は 儂き思い出  
人生のほんの少しだった 君の面影

元気でね と言ったのは別れの言葉だったの？  
もう会う事もないと いつから知ってたの？  
真冬にコタツ囲んで 話しこんでた  
ほんのひとときが 遠くなる

雨上がりの夜の夢 君は優しく  
私を見つめそっと キスを交わした  
今も何処かに残る 想いが胸を叩く  
君は どうしてるかな

きっとどこかの町で すれ違っていたりとか  
また会えるかなんて 期待して

桜の木の下で お弁当食べた時  
あれが最後だったなんて 思わなかった  
静かに 消えるように手を振った  
君が今も 懐かしく  
君がまたひとつ 遠くなる

## Alive of Life

---

ある時思った 掌の先は  
新しい 扉の向こう側にある何か  
向かって倒れて 起き上がって  
また造り直す為に それを開けよう

いつも言う 繰り返し言われてる  
無理はするな、頑張らなくていい  
わかっちゃいるさ それでもいいじゃない  
一度心に 火を点けてしまえ  
握り締めた刀みたいに

世界はグルグル うまくいなくて  
ゲームオーバー 同じような日々  
そんな僕等のとある喜び  
秘訣と秘策の行く先  
生きる為に動き続ける

ただのイメージ 描いてみたらいい  
change of your mind  
飛べるように変わる  
ぶつかって当然 困難は必然  
でも乗り越える 力は平等  
投げ込んでるボールみたいに

世界は回って なるようにならない  
ゲームで勝てない 流れゆく日々  
そんな僕等のとある閃き  
秘訣と秘策の行き先  
掴む為に造り続ける

そりゃドラマじゃあるまい 晴れの日ばっかじゃない  
死ぬために生きて 生きて死ぬのだろう  
でも目をこらして見つめ続けていようよ  
Hold on to me 絶対それは嬉しいもの

世界がわからず うまくいなくて  
ゲームはいつでも 同じような日々  
そんな皆の大きな喜び  
秘訣と秘策のともし火  
掴み取るから生きてる  
だから生きてる  
動けるうちに生きている

## Deep pearl

---

ごみ箱蹴飛ばす今の僕 やけにいらついでる  
着信 君専用のメロディ 何故か出れなくて  
求人募集の張り紙 引き剥がし川へ破り捨て  
よどむモノが邪魔になる 君に想いを馳せるのも

その涙は心に痛い リアルに伝わるDeep pearl  
いつか僕は その涙を 喜びに光らせてみせるから

天使さえこの街じゃ眠れない 汚れた路地裏で  
夢を見てるだろう君の寝顔 頭をよぎったよ  
何故こんなにもお手軽に 愛し愛され嘘が増え  
そんな俗世でいつの日も 君には丸ごと正直に

その涙は心に痛い リアルに伝わるDeep pearl  
君に触れて その涙を 全て受け入れてみせるから  
その涙はやっぱり痛い リアルに感じるDeep pearl  
これ以上は泣かないでいい この胸貸すから 抱きしめるよ

軋む身体 うるさくクラクション 後一步で 破れる殻を  
抜け出したら 君のもとへ 走るから  
目指すは楽園...uh

その涙はやっぱり痛い リアルに感じるDeep pearl  
これ以上は泣く事ない この胸貸すから 抱き合おう  
その涙は心に痛い リアルに伝わるDeep pearl  
必ず僕はその涙を 喜びに光らせてみせるから



## 明日へ歩けば

---

そう簡単に來れた訳じゃないけど  
確かにあたしはここまで來てる  
きみの 手のひらを握りしめた時  
安心の吐息ひとつ 漏らしたんだ

もっともっと明日へ行こう  
もっともっと遠くへ行こう

何度もけつまずいて傷をふやしても  
生きることをあきらめかけていても  
きみの 笑顔を見る度に  
この街へ來てよかったと思うんだ

ずっとずっと歩いて行こう  
ずっとずっと一緒に行こう

あたしの道はでこぼこだらけで  
いつでも闇とクロスしてるけど  
きみの前では不思議と 素直になれるんだ  
そんなとき胸はって うん 笑えるからさ…

時の針があたしをせきたてていても  
自分の 歩幅ってあるもんだよね  
きみを 遠く感じることはない  
だってはじめからいつもいてくれたから

いつだって明日へ行くよ  
いつだって未来へ行くよ

先が真っ暗で何も見えなくても  
手を伸ばせば何かつかめるだろう  
見上げればそこに光る一番星のように  
きみがあたしを うん 照らしてくれる

振り向かずに 前だけを見据えて

悲しみは踏みつけてしまおう

そして 今日もあたしは歩くよ きみを見つめて

ここまで来たから うん 明日も歩くよ…

## destiny of two

---

彼女は何処かに笑顔置き忘れて 道端うづくまる  
白い息を乾いた指で挟みながら  
見上げる夜空に明日への不安

まだ大人になりきれない彼は ただ走っている  
白い息を繰り返し吐きながら  
見つめる希望に繰り返す自問

離れてる ふたりのdestiny  
通り過ぎるふたつの心技体  
かけ離れても互いが出逢うなら  
そこにはただ温もりがあるはず

すぐ傍に聞こえるよ  
掠れそうで小さな声でさえ

人並みはこんなに大きくて  
彼女は押しつぶされそうになる  
幾つもの光を浴びながら  
彼は群集の中輝いているけれど

今はまだ分からないdestiny  
別々の暮らしを送っているだけ  
いつの日かふたりは出逢うはず  
例えそれが偶然だとしても

すぐ傍に佇んでる  
街角のノイズの中で  
今渡って行くjunction  
ふたりだけの確かな声

彼女が小さい頃描いていた虹の絵は  
彼が刻んだ大きな夢と希望の色

今はまだ出逢えないdestiny

別々の朝をまだ迎えるだけ  
必然のまま互いを知った時  
きっとそれは輝いてる未来

探してるすれ違うdestiny  
いつの日かふたりは交わすだろう  
温もりを確かめ合う指で  
離れないと誓うことだろう

## Ruined town

---

金切り声がする  
扉を叩きまくる  
叫び続けては ブチ破る罵声

鍵なんてとっくに失くした  
うっかり落としてしまっただけで戻りやしない  
誰かが平和と唱えても誰も彼も家族も信用ならない  
夢とか願望なんてもともと  
存在するか知らない位分からない

a ruined town  
屑だらけな部屋  
出てはいかれない

甘ったるいけど  
何だか独りっきり  
部屋に引き籠もって  
自分が満足して  
今夜もせわしない

a ruined town  
出て行く勇気もありゃしない

どれだけ何かを早くしたら  
流行ってものについていける？  
それに流れる術はない  
もともと器用に生きられないから

何かが起きれば落ち込んで  
読み捨てられた新聞拾って  
何が起こったか知るだけだ  
格好良くないのは分かってる

a ruined town  
宛てもないままに  
やる事ないままに

だらだら生きるだけ  
悪いって頭じゃ思う  
不器用な渡り方  
例えばゴミの捨て方  
積み上がるだけの部屋

誰も聞いちゃくれないだと  
自分でなんとかしなさいと  
他人が何を言ったって  
心貫けなきゃ  
何もかも足りない

今すぐに捨てちまえ  
今すぐに始めてしまえ  
今すぐに終い込め  
今すぐに纏めちまえ  
今からでも決めてしまえ  
今からでも変われるなら

Never too late

a ruined town  
いつか年が回った時  
俺は此処にいるか  
俺は何処で生きてるか

短いようで長く感じて  
長く感じて短く感じる  
時にはそうだし 時にそうでない  
そんな事は自分が感じて  
何が妥当で 何がいけないと  
自分で程ほど知らなきゃならない  
自分を連れ出していけ  
このa ruined town

## 蹴り飛ばせ

---

振り返ると 照らされた光  
緑の中 何処までも続いている  
きっと果てしなく 道が伸び続ける  
そしてそれは 不安を抱く明日じゃない

何がそこまで追い詰めて  
何を助ければいいなんて  
何もかもがわからない  
何を理解しろとは言わない  
誰も知らない人がいようと  
誰かがそこにいるだろう  
誰かを守るものがある  
誰もがそのために生きている

蹴り飛ばせ  
超えられればいい  
ほんの少しだけ  
今よりたやすいと思えば  
I'm trying

ひとつずつ 階段を昇るように  
その度に 新しい景色が見える  
そう、今まで気づかずにいたものさえ  
きっとそれは 身体中に広がると言えるだろう

何をくよくよしていても  
何も時はとまらない  
何かがわからなくなった時  
何かを考える時ともなる  
誰かがそこに迷ったら  
誰かそばにいる筈だから  
誰もが見知らぬ孤独はない  
いつまでも  
どこまでも  
支えながら

生きているのだから

蹴り飛ばせ

吹き飛ばせばいい

今以上自分が見えるならば

吹き飛ばせ

心配するほど 向かい側なんて

何でもないこと

蹴り飛ばせ

今よりも、吹き飛ばせばいい



## あとがき

---

初めて私がネット上で詞作を公開したのが丁度10年程前の年末の頃だったと思います。その頃まだ自宅にあった古い印刷機で下手に製本したものを友人や知人に配っていた覚えや、旧友にイラストを書いて頂いたりしたものです。

地方で音楽学校を経て仲間達と活動をしていた頃ずっと作詞家を目指していた私の作品はやはりその頃の経験が元になったものが多かったかも知れません。しかし今思う事はそんな経験がなくとも空想力や感覚を研ぎ澄ませば色んなジャンルの詞作が書けるものではないかと言う事です。例えば、漫画にしる小説にしるSFやファンタジーの世界なんて誰も経験していないものだし、それは人の考える感性の鋭さだと私は思います。それだからこそ、素晴らしい作品が出来上がる、そういうもんだなと。

今回私のこの詞集全32作の中身は、それこそ10年以上前に書き始めたものから、つい最近書いたものまで様々で、友達に見せたものもあって「これはいい」「分かりやすくていい」と褒めて頂いたものもあります（例えば「Masaki」「雨上がりの夜の夢」など）。「夏予報」とかはWebで公開した際に良かったと評判を頂いたり、やはり普通の詩ではなく「詞」と言うジャンルにしたいからこそ、韻を踏んで遊んでみたかった作品も多々あります。それはお読みになって頂ければなんとなく分かって頂けるかも・・・わかりません。

どんな詞がどんなジャンルの曲を想像するかはそれぞれですが自分の中では「これは完全ROCKにしたい」、「これはバラードにしたい」と意識して書いたものもあります。中身も恋愛物であったり、哲学的なものであったり、人生的なものであったりと自分ではそういうつもりではありませんが皆様のそれは受け取りようかなと考えてはいます。

「New Thinking」はそれこそ捻くれてるといふか少し斜め感に皮肉ったものでありますし、「Dream Rord」と「Alive of Life」は殆どにたような感覚で書いたものでもあります。後は違う作品の中でも自分が体験したようなフレーズを混ぜたり、景色を見たりして感じたものを織り交ぜてみたりしたものもあります。「HAKATA BAY SIDE」や「Winter Memories」のように見たままの記憶から起こして書いたものもあります。「ティーンエイジブルース」のように少年心だったり「エディの酒場」みたいに昔のアメリカや米軍基地の周りであったような酒場をイメージして作ったものもあれば、「Destiny of two」のようなストーリー的な感じであったり、そのままの体験で綴っていたりする作品も中にはあります。また、「What is loved」はあの3. 11に対し、自分なりのレクイエムのつもりで綴ったものです。

全作品に自分なりの個性は詰めたと思ってはいるので、それを感じて頂ければ幸いです。

今まで書いたものは本当に人に見せていたとは思えない駄作を含めれば500近くはある筈です。その中の自信作であったいくつかはネットの鯖潰れでどこかに行ってしまい惜しかったなあ

と思うものもあります・・・。

でもまだそれをもしかしたら超えられるかもわからない作品が自分の心から産まれたら、気まぐれながらも書くかもわかりません。所謂アーティストとは気まぐれだと思います。そのままの

感覚、そのままの感性、それしか生み出せるものなんてほかに存在しないのではと思っています。

最後になりますが、これを読んで下さった全ての方に感謝、そして幸福が訪れますように・・・。

2013 12月

吉日 神波 由那